

令和3年度第2回 南国市総合教育会議 議事録（概要版）

日 時	令和4年2月17日（木） 9時30分～11時00分
場 所	南国市役所 5階 第2～5委員会室
出席者	南国市長 平山 耕三 南国市教育委員会 教育長 竹内 信人 教育委員 上岡 哲朗 教育委員 大井田 典子

1 開会

開会の挨拶（平山市長）

2 議事

〔議事1〕 令和3年度南国市教育委員会の事務事業自己点検について

【教育委員会事務局】

（資料説明）

【大井田教育委員】

- 不登校プラスワン未然防止等事業についてお話させていただきたい。私の娘も不登校真っ只中なので、私自身が日々悩みながら子育てをされていて思うことは、「不登校の数だけ困っている保護者がいる」ということである。子どもたちの支援はもちろん必要だが、保護者を支援することで、その子の不登校の背景、要因が見えてきやすいように感じる。
- コロナ禍で不登校がこれだけ増加しているということは、コミュニケーションの質が変わったのではと思っている。家庭の外では、人と人の距離ができてしまい、反対に家庭内、親子の距離が近くなりすぎてしまったのではないかと。それぞれの家庭が地域から孤立している状況も関連するのではないかと。経済的貧困よりも心の貧困の方がコロナ禍では深刻ではないかと感じている。
- 困っている保護者の一人として、保護者に必要なのは、「今お母さんこう見えていますよ」と俯瞰して見守ってくれるコーチ的な存在だと思う。私自身もプロのコーチではあるが、自分の子育てとなると俯瞰することできず、どうしても冷静な判断が出来ない。学校の先生方も、日々教育のプロとして子どもたちに向き合っているが、わが子の子育ては上手くいかないという話をよく聞く。それぐらい自分自身のことは見えないし、子育ては正解がないので難しいのではないかと。
- だからこそ保護者は、自身の「保護者力」を育てていかないといけないと最近気付いた。学校のことは学校に任せるではなく、学校が自分に何をしてくれるのかでもなく、自分の子どもが通う学校と一緒に参加し、自分が作っていくというくらいの意識を持って関わっていかないといけないと改めて気付いた。それはコミュニティスクールや地域学校共同本部の推進にも繋がっていくのではないかと。
- 子どもを保護者だけで、夫婦二人だけで育てないといけないと思わなくていいように、周りの人に助けってもらって一緒に育ててもらおうという事が出来るように、人との関わりを作っていく力がこれからますます必要になってくるのではないかと。そして、自分も地域の子どもと一緒に育てていけばいいのではないかと考える。

令和3年度第2回 南国市総合教育会議 議事録（概要版）

- 先日、娘の学校の先生に「お母さんとしての私どうですか？」「うちの子どうですか？」と思い切って伺った。自分から親子のありのままの姿をお伝えし、「どうやって見守ってあげればいいですか？」と学校と話をさせていただいた。学校に出来る事と、親に出来る事と双方向でアイデアを出し合って選択肢が広がり、私の心がすごく軽くなった。もっと早くこうしておけばよかったと思った。今まで言い出せなかったのは、SOSを出すことも出来ないくらい困っていたという状況もあったのかなと感じた。
- これだけ不登校が増えていくと、相談できない保護者も増えていると思う。学校との距離もできて、子どもが学校に行っていないと学校行事も参観日も行けず、ママ友とも会えないという状況が続いて、だんだん孤立し、話せなくなる。そういう困っている保護者はきっと沢山いると思う。
- 不登校のお母さん同士でないと分からないことがあるので、私で良ければ、いつでもどこでも飛んで行く。声を掛けてもらえれば、不登校の体験談を話すこともできると思う。
- 一人一台端末を活用し、学校に行きづらい子どもたちが家庭で学習が出来たり、別室で授業配信が出来たり、不登校児童の支援の幅を増やすことにつながっていったらいいなと思う。
- 南国市美術展覧会も全ての子どもたちが参加することができるよう、学校に行っても作品づくりが出来るとか表現する場を作ってあげることも居場所づくりの一つになると思う。今、子どもたちは個人では出品できず、学校単位で出品する形式であったと思う。

⇒【教育委員会事務局】

- 南国市美術展覧会について、私学に通っている児童生徒についても、個人で出品することが可能である。

⇒【大井田教育委員】

- 私学の児童生徒は個人でも出品できることを知らないと思うので、周知していただきたい。出品することで、人との関わりがまた広がっていく可能性もある。いろいろな分野で子どもたちの居場所づくりを考えていただきたいと思う。

⇒【平山市長】

- 実体験を基にすごく重みのあるご発言だった。保護者の支援について、学校で対応されることはあるのか。

⇒【竹内教育長】

- 保護者の支援については、PTA 活動の中で研修をしたり、子育てに関するお互いの悩みを打ち明けたりとかそういった場があったが、近年、PTA 活動自体が動かなくなっている。また、地域の結びつきも薄くなっている。保護者の悩み相談は、就学前の幼稚園・保育で行っているが、今後は小学校でも必要になってくるのかもしれない。

⇒【平山市長】

- 昔は、近くにおじいちゃんおばあちゃんがいて、家庭でも地域でも子どもを見守っていたという事はよく言われる。今は、核家族化していて見守るという環境自体が昔とは違ってきたところがある。相互の見守りについては、今後の大きな課題である。
- 私自身も以前、PTA 活動に携わっており、周りの仲間と情報共有しながら、助け合うという環境があった。特に妻は、お母さん仲間と子育ての悩みや対策を共有し合っていた。そういった環境が年々少なくなり、コロナ禍でさらに人が集まるといことが少なくなっている。

⇒【竹内教育長】

- 地域コミュニティや人の結びつきを補おうと、国が積極的に推進しているのが地域共同本部であ

令和3年度第2回 南国市総合教育会議 議事録（概要版）

る。若干違うかもしれないが、コミュニティスクールも学校を中心に据えて活動していく部分では、一定補うものになるのではないか。この両輪に、教育委員会としても期待している。

⇒【平山市長】

- 大篠小学校ほどの大きな規模になると、コミュニティの形成も難しいところがある。

⇒【竹内教育長】

- 大井田委員がよく言われるように、経済的孤立への支援というのは行政でも手立てが取られるが、心理的孤立への手立てというのは非常に難しい状況である。その部分が穴になっていると思う。

⇒【平山市長】

- やはり、地域で第一線を引かれた方々の見守りが必要だと思う。現役世代は忙しく、PTAも参加出来ない状況がある。

⇒【教育委員会事務局】

- 大井田委員からいただいたご意見の1つ目、不登校の悩みを持つ保護者について、これだけ市全体の不登校児童生徒数が増えている状況において、市全体で悩みを持つ保護者が集まるような仕掛けや仕組みが必要なのではないかと感じた。教育長から説明もあったが、以前は市P連が独自に講師を招いて研修会を開き、教職員・保護者が集まる機会もあったが、コロナでそうした機会が失われている。そうした研修会ができるよう、市P連に働きかけが必要であると感じた。
- 2点目の不登校児童生徒の南国市美術展覧会への出品については、教育支援センターでも対応できるのではないかと思う。学校には行けないが、支援センターで作ったものを出品できる可能性がある。学校に行きづらい児童生徒が出品できるという声がかけても必要である。南国市が目指す「才育」子どもたちの特性特徴を伸ばしていくという点でも、そうした働きかけが必要であると感じた。

⇒【平山市長】

- 南国市美術展覧会は、児童生徒の皆さんが自然に参加できるような環境づくりを考えていただきたい。ご提案のあった作品づくりも、ぜひふれあい教室で実施していただきたいと思う。

【上岡教育委員】

- 不登校にも関連するが、小中学校で不登校の児童生徒が高校になると小中から離れた別の集団になり、南国市から高知市へ通う生徒も多い。その際にも保護者の方はやはり不安があると思う。高校に入ると環境がガラリと変わる。小中学校時代の自分を知らない人達が周りにいるためうまくなじめる場合もあるが、なかなかなじめない場合もある。人がたくさんいる所にいられるかどうか大きな要因になる。
- 夜間学校や通信制の高校もあり、それほど人と接することない集団を選択することもできるが、高校入学にあたり、保護者が不安に思うことも支援できたらと考える。高校に安心して来て下さいと伝えていくことが必要だなと感じた。ただ、そういった発信を行うにも、教員の仕事量がさらに増えてしまう。教員は、授業をして、部活動、生徒指導もある。コミュニティスクールなどの仕事も入ってきて、純粋に子どもと向き合う時間が減ってきている。児童生徒とその保護者に向き合える時間をできる限り取れば良いと思う一方で、教員の仕事がどんどん増えている実態もある。
- さらには、新しくICTが導入され、一人一台端末を授業で使うために、それに関連する新しい業務がまた増えている。各学校に支援員が配置されていると思うが、教員が全ての事前準備をするとなると負担が大きすぎる。ICT活用に関する支援の幅は、どのように広がっているのか。

令和3年度第2回 南国市総合教育会議 議事録（概要版）

⇒【教育委員会事務局】

- 令和2年度までは、ICT支援員を小中学校17校に2名配置し、日々の授業前の準備や授業をサポートしていただいている。令和3年度からは、GIGAスクール構想の実現ということで、ICT支援員を5名に増やしている。しかしながら、小中学校17校に対して5名の支援員となると、ほとんどが1週間に1校程度しか対応できない状況である。
- 学校現場での支援の他に、アカウント管理がとても困難状況にある。児童生徒は、一人一台端末の利用にあたり「Google」「授業支援ソフト」「学習ドリル」「県教委のシステム」の4種類が付与される。南国市立小中学生の約3,400人、その4倍の全てのアカウントを管理、年度当初は更新しなければならない。また、転出入があると、臨時的に設定する必要もある。これらは、ICT支援員がいなければ大変な状態になっていると考える。

⇒【上岡教育委員】

- ICTに関する報告会にオンラインで参加し、他県からも参加があった。そのなかで先生方の議論が、これまでは「自分がこの授業をどうやってしたらいいのか」というものから「この授業を見て子どもたちはどんな風に動くのだろうか」と主語が変わり始めたという話題があった。また、子どもたちの意識も、これまでの「どうやって知識を身に付けるのか」から「この身に付けた知識をどうやって使うか」というふうに変化してきている話もあった。
- ICT導入前は、授業中に生徒の考えを書いたものを一度持ち帰り、次の時間にみんなに共有するという流れだったのが、一人一台端末を使うとその場ですぐ共有ができる。2時間かけていた授業が1時間で終わり授業のテンポが速くなるとの報告があった。2時間でやっていたものが1時間になるのもう1時間は思考力や表現力を養う時間に充てることができる。ICTをいい環境で上手く活用できれば、授業のテンポを変えていくことができると思う。
- コロナ禍でオンライン・リモートが一気に進んでいる。もしコロナがなかったら、ここまで進んでいたのだろうかという話題も出るほど、オンラインが社会に浸透している。家庭に通信環境があれば、学校に来ていない子どもが家庭で授業を受けることができるのではないかと話題もあり、ICT活用により学校も新しく形を変えるかもしれないと考える。

⇒【平山市長】

- 貴重なご意見をいただいた。高校進学にあたり、環境の違いに保護者が不安を抱くのもよく分かる。そんな時に学校の先生の「大丈夫ですよ」という一言は保護者の心配を軽減するだろう。しかし、ただでさえ忙しい先生方が全てに気を配るのは難しいことも現実だと思う。
- ICTを使った授業について、今後、活用の幅が広がっていくのだろうと感じた。先日、高知工業高等専門学校との連携事業の幹事会をオンラインで開催した。資料も画面上に表示でき、情報共有が簡単で、意見の交換も十分出来るため、効率的に会議ができることを体感した。通信の課題はあるが、スムーズな情報のやり取りが出来るICTの活用を進めていきたいと思う。
- Society5.0という時代でAIや情報通信が急激に成長している。GIGAスクール構想もそうだが、市役所業務もDXを推進する動きがあり、仕事のやり方がコロリと変わっていく時代になった。これほど急激に変わってしまうと対応も困難だが、ゆっくりもしてられない。
- 高知工業高等専門学校との幹事会でGIGAスクール構想の一人一台端末の授業での効果的な活用方法を協力しながら研究していきたいという高専側の意向を伺った。高知高専と教育に関する連携ができるのはありがたい提案だと思う。他の機関との協力体制、つながりを作っていくという事も社会の変化に対応するために必要である。教員の先生方の負担をいかに減らすことができるのか、高専の先生方からも知恵をいただきたい。

令和3年度第2回 南国市総合教育会議 議事録（概要版）

⇒【竹内教育長】

- 新たな課題が出てきたときに、関係機関との連携によって質も高められるし、時間確保もできる。関係機関に助けをいただくことが案外遠回りのようで近道なのかなと思う。

⇒【教育委員会事務局】

- 上岡教育委員のご意見、ICT の活用について教育委員会の状況を説明させていただく。通信環境整備、ローカルブレイクアウトの工事もほぼ完了に近づいており、市内のネット環境の整備が進んでいる。市のDX管理職研修会でも「人材育成」が大切であるとの話題があったが、教育委員会事務局としても、高専も含めた専門機関のお力添えいただき、教員のスキルを高めていきたい。
- 今後のICT活用にはICT支援員の配置を重要視しており、今年度は2名から5名に増やしているが、財政的な影響を考慮して、英語教育の支援員をスクラップし、そのスクラップ分を増員分3名のICT支援員に充てている。ICT支援員の報酬は、県のアクションプランによって財源措置もあったが、そこから外すという話がある。今後のICT推進に欠かせない存在なので、この件の経緯について、この後、担当者から説明させていただきたい。ICT支援員の継続配置を事務局として要望する。
- 令和3年度までは、県の教育版アクションプランで補助を受けICT支援員2名、今年から5名を配置していたが、先日2月8日の県とのオンライン会議で、令和4年度からICT支援員が県の教育版アクションプランの補助対象支援員ではなくなると言われた。教育のICT化に向けた環境整備計画は、2018年度から2022年度の5か年計画で、今の目標はその5年間で単年度1,805億円の地方財政措置を投じることとされている。計画にはパソコンの整備等さまざまなものがあるが、ICT支援員については、4校に1人という基準が掲げられている。南国市の規模でいうと5名になる。その5名分が来年度からは県の補助対象にならず、市負担になってしまう。財政課とも協議をしているが、何とか5名を継続配置していただくよう教育委員会事務局からの要望である。

⇒【平山市長】

- ICTの活用を進めようとする今、ICT支援員が必要であることは理解できる。継続して配置していただきたい。

【竹内教育長】

- 自己点検シートが昨年から評価方法を変え、総合教育会議で話し合われたことも含めて評価委員に提出する形となった。事業も全部書けばもっとあるが、一定規模の課題や精力的に取り組んでいる事についてピックアップして掲載している。これが全ての事業ではないことを知っておいていただきたい。今後、今の内容を再度整理し、評価委員の方に渡し、その後市民への公表、議会への公表という経過をたどることもお知りおきいただきたい。

【上岡教育委員】

- 男女共同参画の推進について、学校の中では女子生徒の能力が高く、様々な事を中心になる多くは女子生徒である。勉強も活動も両立できている。男子生徒はそれにくっついてきているような感じである。学校のシステムそのものが女性教諭の力が凄く大きく、学校のなかでは男女共同参画が進んでいると思う。数値で評価すると管理職の割合が出てくるが、実際の仕事は男性女性関係なく行っており、数値上女性が少ないというだけのように感じる。学校において、実際にどのような仕事をしているか、どのような役割を担っているかということを表に出したら、男女共同参画が身近に感じられるのかなと思う。

令和3年度第2回 南国市総合教育会議 議事録（概要版）

⇒【平山市長】

- 学校現場の男女共同参画の現状についてご意見をいただいた。男女共同参画が進んでいる学校現場について、どんどん発信してはとのことだが、全体的な推進状況はどうなっているか。

⇒【教育委員会事務局】

- 男女共同参画推進計画の策定にあたり、市民の意識調査を実施している。傾向として、ある一定の年齢から上にいくと育児に参加しないなどのネガティブな意見が出てくるが、若い世代は、それなりに男女共同参画の意識を持っているという結果であった。

⇒【平山市長】

- 男女共同参画社会の意識醸成・啓発を続けていくことに加えて、学校現場など進んでいる環境があることを伝えていくことも必要である。

【大井田教育委員】

- 学校がもう少し地域の中で開放的になれないものなのか。地域の人が学校に気軽に入っていける環境では、防犯対策などいろいろな課題もあると思うが、どうぞと言われても入りにくい雰囲気があると思う。保護者は様々な職種の方がいるので、お仕事の実体験を聞く授業があったら、子どもたちの未来の選択肢も広がると思う。今、私たちが想定している職業ではない職業に就く子どもたちがこれから増えてくると思う。いろいろな価値観を持った人がいるんだよということを子どもたちが身近に感じられるような、そんな授業があってもいいのではないか。教科書で勉強するのももちろん大切だが、どうしても人と人とのつながりというのが大事になってくる。これからの時代はオンラインで会わなくても誰かと話ができる時代になってくる。だからこそ逆にアナログな部分にも注目したい。もっと地域に開かれた学校が作って行けないものなのかなと思う。

⇒【竹内教育長】

- 新たな制度や仕組みを取り入れてもそれが定着するには時間がかかるが、地域共同本部やコミュニティスクールがそういうものを担うことになると考えている。

⇒【平山市長】

- 昔は保護者が先生になる「1日先生」などがあった。今もそういった機会はあると思うが、確かに気軽に学校へ来られるような雰囲気ではないと感じる。

⇒【大井田教育委員】

- 学校行事に参加しようとする意識が薄れてきているのもあるかもしれない。コロナ禍でさらにみんなが集まらず、どんどん地域とも離れていく。誰が近所に住んでいるのかも分からないような状況になりつつある。私は交通指導で小学校の前に立っているため、人を知れる機会があるが、自分が出て行かないと、なかなか一歩踏み出すのは難しいのではないかな。

⇒【竹内教育長】

- PTA 活動も、保護者が忙しい状況にありなかなか人が集まらない。総会に半分も保護者が集まればすごいことで、概ね1割程度の参加である。

⇒【平山市長】

- どうやって保護者が出てきやすい環境をつくるのか、これも難しい課題である。

令和3年度第2回 南国市総合教育会議 議事録（概要版）

〔議事2〕 その他

【事務局（企画課）】 次回日程説明

3 閉会

以上